

令和３年度第３回木更津市史編集委員会 会議録

- １．会 議 名 令和３年度第３回木更津市史編集委員会
- ２．開催日時 令和４年３月１８日（金）午前９時３０分～１０時３０分
- ３．開催場所 木更津市役所駅前庁舎 会議室１
- ４．出席者 市史編集委員会委員 出席８名
成田篤彦委員長、實形裕介副委員長、谷畑美帆委員、石和田秀幸委員
大関真由美委員、島立理子委員、駒早苗委員、岩埜伸二委員
教育委員会事務局 ７名
廣部昌弘教育長、秋元淳教育部長、平野義視教育部次長、小高幸男文化課長、
青柳英明係長、坂口孝輔主任主事、矢野茜事務員
- ５．議題及び公開又は非公開の別
議題１ 『木更津市史』の刊行計画の見直しについて（公開）
報告１ 令和３年度刊行物について（公開）
報告２ 木更津市史編さん部会設置要綱の改正について（公開）
報告３ 木更津市史編さん事業におけるデジタルアーカイブ化及び公開事業の実施について（公開）
- ６．傍聴人 なし

事務局（青柳係長）

定刻になりましたので、ただいまから本年度第３回木更津市史編集委員会を開会いたします。進行はわたくし青柳が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の市史編集委員会は、川戸委員、篠田委員は欠席でございます。

会議につきましては、附属機関設置条例第６条第２項の規定により、成立しております。また、会議は公開で行いますのでご了承ください。

はじめに、成田委員長よりご挨拶を申し上げます。

成田委員長 おはようございます。成田でございます。年度末のお忙しいところ、編集委員会にご参加いただき、ありがとうございます。

昨年、１０月に部会長会議を開催いたしました。また、今年度の各部会の調査等、進捗報告を拝見しました。

各部会が、コロナ禍のなかで思うように調査ができず、ご苦労なさっていると感じましたが、各部会長さんたちが中心になり、いろいろと工夫されて、調査や編纂を行っておられると思いました。頼もしく、また、ありがたく感じているところです。

また、市史編さん事業に取り組んでから、約6年がたち、調査が進み、データや原稿が集積すると同時に、編集や刊行に向けての具体的な課題が出てくる時期だと思います。皆さんにご協力いただき、充実した市史編集がなされ、同時に資料編、通史、総論が無理なく発刊されるようにご協力をお願いいたします。以上でございます。

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。

続きまして、廣部教育長よりご挨拶申し上げます。

廣部教育長 皆さんおはようございます。教育長の廣部でございます。

各委員の皆様におかれましては、本年度第3回目の市史編集委員会にご出席いただきありがとうございます。

ただいま、委員長からもございましたが、新型コロナウイルスにつきましては、昨日、千葉県知事より、3月21日をもって蔓延防止等重点措置が終了するとの発表もございましたが、本市の状況を見てみますと、連日50人、60人の感染者が出ている状況ですので、予断を許さない状況でございます。

このような形のオンラインでの会議になりましたが、よろしく願いしたいと思います。

さて、本年度は残りわずかとなりましたが、来年度につきましては、いよいよ木更津市史の資料編の古代編が刊行ということになります。

また、木更津市史編さん事業の取り組みとして行ってまいりました、木更津市の歴史資料の一つでございます、千葉県指定有形文化財「天正検地帳」のデジタル化や、真里谷にございます、真里谷城跡、天神台城跡、要害城跡の3城の木更津の城における陰陽図等の作成作業が今年度で完了し、令和4年5月より、デジタルアーカイブ上での公開を予定しております。

インターネット上で、木更津の歴史資料を手軽に見ることができ、市民の郷土木更津の歴史への関心を高める効果が期待できるとともに、木更津市の歴史や、文化に関する情報を全国に発信し、木更津の魅力を広く紹介してまいりたいと考えております。

本日は一つの議案の審議をお願いいたします。木更津市史編集基本構想及基本方針を平成27年3月に定めたところでございますが、平成元年度から現在まで続いております、新型コロナウイルス感染症の影響におきまして、調査等の自粛や制限等をおこなったため、市史編さんの進捗にも影響が出ております。

つきましては、市史編さんに関わる基本方針を含めまして、編さん事業の見直しについてご協議いただき、その結果を今後の市史編さんに反映してまいりたいと考えております。

委員の皆様には、それぞれお仕事持ちながら、また、新型コロナウイルス対策に留意しながら、大変ご苦勞をおかけしているところでございますが、市史編さんにつきましては、本市といたしましては、大変大きな事業、重要な事業に位置付けておりますので、引き続きお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。

それでは、会議に入ります。会議の前に資料のご確認をお願い致します。

事務局（矢野事務員）

（資料確認）

事務局（青柳係長）

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることになっておりますので、議事進行を成田委員長にお願いいたします。

成田委員長　議長を務めさせていただきます。本日の議題の、「木更津市史」の刊行計画の見直しについて、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（小高課長）

本日の議題といたしましては、木更津市史の刊行計画の見直しについてでございます。

一昨年から、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今進めております市史編さん事業にも影響が出ております。

特に、民俗部会による調査につきましては、対面による聞き取り調査が、調査の主となるものでございますから、人との接触を避けることから、民俗部会による調査がほとんど実施できなかった状況でございます。

当初資料の下のほうに示したとおり、木更津市史刊行計画の中で、民俗部会においては、民俗調査報告書9巻と総論1巻の合計10巻を刊行する予定でございましたが、このままで行きますと、その9巻を出すことは困難であるとのことで民俗部会長からの申し出がございまして、事務局ならび民俗部会と刊行計画の見直しを協議しておりました。

その結果、民俗部会からは、調査報告書の刊行冊数の見直しを提案いただいております。

内容といたしましては、木更津地域の民俗特性を考慮して、町場とその周辺地域、東京湾海辺、小櫃川中流域、里山。この四つの地域に分類して、聞き取り調査を行い、調査報告書については4巻を刊行するという見直し案を提案していただきました。

調査の方が、先ほども申しましたように、コロナウイルスの関係で約2年

間、聞き取り調査等が実施できておりませんので。その分を考慮して、刊行計画は2030年度を目途に、他の歴史系、自然系の刊行物と合わせて、刊行ということで計画しておりますが、民俗調査報告等につきましては、その期間中での刊行は難しいというような提案をいただいております。

この4巻について、概ね2年の編集、そして3年目に刊行というような流れで行くと、だいたい3年おきに1巻ということで、当初2030年度までというものを、2032年度まで延長して、2033年度に4巻目を刊行するような運びになるというような提案をいただいております。

この点について、ご協議いただきたいと存じますが、本日まで出席いただいております島立委員に、民俗部会の方にも加わっていただいておりますので補足の方をお願いしたいと存じます。

島立委員 昨年度末にも民俗編の刊行計画の見直しということでお願いをいたしまして、今年度もまた、刊行計画の見直しということでお願いをしているということで、非常に心苦しいところなのですが、皆さんご存知のように、コロナウイルス感染症が非常に猛威をふるっておりまして、対面調査がなかなか出来ない状態です。

当初予定しておりましたような計画が出来ないということで、部会の方で話し合いをいたしまして、木更津の町、海、川、山という4つの報告書をまず刊行させていただき、最後に総論ということで、話し合いの結果なっております。ただ、非常に総論編までで時間がかかってしまうということもございますので、その件につきましても、こちらでご意見をいただき、その結果につきまして、部会の方に持ち帰りさせていただきたいと思っておりますので、ご審議の程よろしく願いいたしたいと思っております。以上です。

成田委員長 ありがとうございます。そうしますと、当初の刊行計画では、民俗調査報告書を地区ごとに9冊刊行する予定だったと思います。

それを4冊に発行したいということですね。このことについて、ご質問ございますでしょうか。

成田委員長 急ですから、中々質問と言われても出てこないと思いますが、私のほうから、先ほど小高課長から説明があったところなのですが、例えば木更津町その周辺の民俗というのを出すとすると、3年を一つのセットということですね。町の民俗を最初に出すか、海の民俗を出すか、その順序はまだ決まっていないけれども、2年聞き取りをして、3年目に発刊。それを繰り返していくということでよろしいのでしょうか。

事務局（小高課長）

そのとおりです。

成田委員長 そうすると予定としては、4巻目が西暦でいくと2033年ぐらいになる

予定でしょうか。

事務局（小高課長）

はい、民俗部会からの提案によりますとそうなります。

成田委員長 総論は、その後ということですね。

事務局（小高課長）

総論につきましても、同じような周期で3年ということになると、2036年度ということになってしまうと大幅な刊行事業を見直さなければならなくなります。

それについては事務局としても非常に厳しいところがございますので、総論につきましては、今一度、民俗部会の方々と調整をはかれないかと考えております。以上でございます。

成田委員長 わかりました。今の説明でおわかりになりましたでしょうか。市のほうで予定されている計画よりも、すべての事業、市史の事業が終了するのをオーバーしてしまうということになるということですね。

それでは難しいところがでてくるということです。今のお話を踏まえていただいてご質問等ございますか。

實形副委員長 単純なところですけど、この刊行する中で、これまで地区別だったのを特徴に合わせて減らしてまとめるのは、良いまとめ方だと思います。

これまで地区別だと、ダブる部分もありましたし細かすぎたところもあったと思いますので、その辺は、これでテーマをかなり絞った形でまとめると、おそらく調査の方も進めやすいと思います。

少し危惧したのは、この調査編集、刊行がダブってしまうと大変だなと思ったのですが、計画を見ると上手くダブらない、一部はダブるのでしょうけど上手くその辺が住み分けて進めるので、報告書については上手く調査が進むと思いますので、見直していくのが一番現実的なのだと思います。

総論については、時間かかるやり方はもう無理だと思いますので、1冊ですから、1冊にうまくわかりやすくまとめるやり方を持ち寄って、ページ数とかいろいろあると思いますので、見直しを進めて現実的に進めてくのがよろしいのではないかと思います。

成田委員長 ありがとうございます。4冊に絞ってまとめていく方向性については、良いのではないかとということですね。

それでは、今、實形副委員長のお話を伺いましたが、島立委員の方で何か補など説明がありましたらお願いしたいと思います。

島立委員 実形副委員長、ご意見ありがとうございます。4つにまとめるということにつきまして、肯定的なご意見いただきまして大変ありがたく思っています。

総論につきましては、今一度、部会の方に戻りまして、総論のまとめ方、

その2033年からさらにということは非常に刊行計画全体からすると難しいと言うことですので、今一度、部会の方で話し合っ、総論のまとめ方につきましては、また議論をして、こちらの方に提案をさせていただくという形にさせていただきたいと思います。以上です。

成田委員長 ありがとうございました。今、島立委員から、もう一度編集計画等については、部会に持ち帰って検討したいというお話でした。

皆さん方で何か他にございますか。意見、質問などありましたら。お願いいたします。

成田委員長 特にないでしょうか。

島立委員 確認ですがよろしいですか。

この4冊にするということについては、皆さまご賛同いただけるということとでよろしいでしょうか。

成田委員長 もう一度、こちらではかります。4冊については、實形委員の方から、その方向性で良いのではないかということですが。皆様の方で、何かご意見ございますでしょうか。

了承していただける方は、挙手をお願いします。

(挙手全員)

成田委員長 ありがとうございました。

市史編集委員会としては、この4冊の方向で良いということで、承認したいと思います。

成田委員長 他に何か質問ありますか。

(質問・意見なし)

成田委員長 それでは、ご意見もないようですので、事務局は今日の意見等を踏まえて、対応をお願いしたいと思います。

事務局（青柳係長）

本日の意見を踏まえまして、民俗部会と再度調整したいと思います。

成田委員長 ありがとうございました。本日の議題は以上でございます。

次にその他報告事項に入ります。報告事項について事務局から報告をお願いします。

事務局（矢野事務員）

報告事項の3点について説明いたします。

1点目に、令和3年度の刊行物についてでございますが、木更津市史編さんだより第6号を11月3日に発行いたしました。

また、木更津市史研究第5号を令和4年3月31日に発行する予定でございます。

2点目が、木更津市史編さん部会設置要綱の改正についてでございます。

前回の市史編集委員会でご承認いただいた、部会名の変更について要項を改正し、令和3年度10月1日より、編集部会から編さん部会へ名称が変更されました。

最後に、木更津市史編さん事業における、デジタルアーカイブ化及び公開事業の実施についてでございます。

WEB版の木更津市史の作成に先駆け、資料のデジタルアーカイブ化を令和2年度から3年度で実施いたしました。来年度5月より公開予定でございます。本事業は木更津市史編さん事業の取り組みとして、貴重な木更津市資料の一つである、天正検地帳や真里谷にある、真里谷城、天神台城、要害城跡の3城の木更津の城の陰陽図などをデジタル化により保存し、インターネット上で継続的に資料を提供、公開するものです。

インターネット上で手軽に見ることができ、市民の郷土木更津の歴史への関心を高める効果が期待できるとともに、木更津の歴史や文化に関する、情報を全国に発信し、木更津の魅力を広く紹介するものです。

報告事項は以上です。

成田委員長 事務局から報告をいただきました。このことについて、質問がありましたらお願いいたします。

大関委員 まず、令和3年度の刊行物につきまして、3月31日発行予定の木更津市史研究第5号ですが、こちらの内容がどういったものを教えていただけるようであれば内容をお聞きしたいということが1点です。

もう1つが、3つ目の木更津市史編さん事業におけるデジタルアーカイブですけれども、令和4年度の5月より公開予定となっておりますが、公開したということに対して、どのようなアナウンス方法、市民の方にどのようにお伝えするのか。例えば、学校などでの利用等も含めた感じでのアナウンスをしていくというようなおつもりであるのかお聞きしたいと思います。

もう1点は、このデジタルアーカイブで継続的に資料を提供公開するとなっておりますが、公開方法等は、共有されているのかかもしれませんが、例えば、天正検地帳等の公開と書いてありますけれども、これはあくまでも閲覧のみであって、例えば、画像をダウンロードしたりすることが出来るのかどうか。実際、公開したときのデータがどこまでどうゆうふう、外へ出ていくのかというようなことについて、確認させていただけたらと思います。

成田委員長 わかりました。令和3年度の刊行物について、それからデジタルアーカイブについて。2点ほど質問がありました。事務局いかがですか。

事務局（小高課長）

大関委員からの説明についてお答えします。

まず1点目、木更津市史研究第5号に掲載される内容でございますが、ま

ず歴史系に関するものといましては、中世部会の盛本部会委員から、研究論文が一つ出ております。テーマは鎌倉時代の鎌倉時代の畔蒜庄というテーマでいただいております。

民俗部会からは、研究が一つ、それから調査報告が二つ上がっております。執筆される方は、研究として入江部会委員から木更津市のヤマトタケルとオトタチバナヒメ伝説について。調査報告といまして、木更津の地名を田村部会委員から、八剱八幡神社例大祭運営奉輿を通じてみる町づきあいの諸相と題されまして、和田部会長から報告をいただいております。

考古部会からは、本市の編集委員もかねております、谷畑委員の共同研究といまして、諏訪谷横穴墓群出土人骨から考察する被葬者について、研究論文を一ついただいております。

自然に関しましては、自然部会から、本市の編集委員長でもあります、成田委員長からも、木更津市の南方系昆虫やカニ類の侵入と生息状況、そして、相澤部会委員からアシハラガニの生活について、同じく木暮部会委員から維管束植物分布合同調査の概要を中央博物館との合同調査による調査報告についての調査報告を3本いただいております。

またこれとは別に、令和元年に本市の図書館で開催されました、書物・出版と社会変容研究会との合同による、第128回「書物・出版と社会変容」研究会として、一橋大学と中央大学のそれぞれの研究室との合同調査、成果を発表したものを掲載しております。木更津市史研究第5号の掲載内容については、以上でございます。

続きまして、2点目、デジタルアーカイブの公開ということでございますが、公開については、今年の5月から発表する予定でございます。

内容といましては、千葉県指定文化財の天正検地帳、その副本の画像と翻刻を掲載いたします。また、その他といまして、木更津市史編さん事業の調査のなかで、新たに発見されました、下郡地区の天正検地帳の写本、副本ならびそのほか、寛永年間に実施された検地帳の写し等の画像と翻刻文を掲載いたします。

このうち天正検地帳、県指定の検地帳と、市指定文化財の同副本につきましては、データの画像のダウンロード、プリントアウトできるようになっております。下郡地区の資料につきましては、個人所有ということになりますので、これについては、画像のみの閲覧ということになっております。

それから、戦国時代の木更津の城跡として、真里谷、天神台、要害城跡、この3つの城の3D図の公開については、こちらもダウンロードできるようになっております。以上でございます。

大関委員

ありがとうございました。

成田委員長 他にご質問ございますでしょうか。

實形副委員長 確認です。まず、この3月に刊行される市史研究は、紙媒体での刊行が終わった最初の発行物なのでしょうか。

事務局（小高課長）

こちらにつきましては、これまで編集委員会で協議いただいたように、紙媒体ではなく、電子媒体になります。容量の関係で、今回はCDROMに掲載して発行する予定です。

實形副委員長 このCDROMで、市民に販売する形になるのですね。

事務局（小高課長）

そのとおりです。

成田委員長 よろしいですか。その他、報告事項についてご質問ございますか。

成田委員長 私のほうから一つ。資料編の古代編の刊行は来年度の刊行ということで、4月以降ということでしょうか。

事務局（小高課長）

今の質問のとおり、資料編の古代編については、令和4年度に刊行予定です。

成田委員長 いつ頃になる予定なのでしょうか。

事務局（小高課長）

石和田委員が古代部会に所属しておりますので、石和田委員からお願いいたします。

石和田委員 古代は文献資料が中心なので、その提出が3月末で、締め切りになっております。ただ当然、デジタル化しなければ電子版に載せられないので、その作業が全然進んでおりません。そうゆう点でいうと、今年の4月以降にその作業に入ることになります。

成田委員長 わかりました。ありがとうございました。8月ぐらいまでかかるとか、そのあたりはわからないでしょうけれども、コロナ禍もいろいろあるでしょうから、ありがとうございました。

その他ございますか。

事務局（小高課長）

補足いたしまして、刊行予定は令和4年度末を計画しております。

成田委員長 ありがとうございました。

他に質問等なければ、本日の議事は以上で、終了といたします。

それでは、議長の職を解かせていただきます。本日はご協力いただき、ありがとうございました。

事務局（青柳係長）

成田委員長、議事の進行ありがとうございました。参考資料としてつけさ

せていただきました、各部会の進捗報告につきましては、何か質問がございましたら、事務局までご連絡いただければと思います。

以上をもちまして、第3回木更津市史編集委員会を終了いたします。

なお、令和4年度の第1回市史編集委員会は、7月頃を予定しております。日程が決まり次第ご連絡させていただきます。

本日はお忙しいところありがとうございました。

令和4年3月18日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 成田 篤彦